

論文審査の要旨及び担当者

No.1

報告番号	甲 乙 第	号	氏 名	ハムシャ、フアド
論文審査担当者	主 査	政策・メディア研究科委員	兼総合政策学部教授	島津 明人
	副 査	政策・メディア研究科委員	兼環境情報学部教授	秋山 美紀
	副 査	政策・メディア研究科委員	兼総合政策学部准教授	野中 葉
	副 査	看護医療学部教授		深堀 浩樹
学力確認担当者：				
ハムシャ、フアド君の学位請求論文は、「How Work Attitudes Relate to Individuals' and Their Intimate Partners' Mental Well-Being」と題し、全5章から構成されている。本論文の主な成果は、インドネシアの育児中の共働き夫婦を対象に、働き方の特徴が個人だけでなくパートナーの精神的健康にどのような影響を与えるかについて、その心理社会的メカニズムを実証的に明らかにした点にある。近年、インドネシアでは生産年齢人口が増加し、経済成長が進む一方で、労働時間の増加に伴い、働く人々の精神的健康が悪化している。特に、共働き家庭では、仕事と家庭生活のバランスを維持することが困難になりつつある。そこで、本論文では、未就学児を持つ共働き夫婦の双方を対象に質問紙調査を行い、両者のデータをリンクさせて解析することで、個人の働き方が、ワーク・ライフ・バランスのあり方とストレスからの回復を通じて、個人とパートナーの双方の精神的健康に及ぼす影響を検討した。 第1章では、General Introduction として、インドネシアの労働市場の現状と共働き家庭の仕事と家庭の特徴に言及している。また、仕事に対する態度として、ワーク・エンゲイジメントとワーカホリズムの二つの概念に焦点を当て、両者の先行研究を紹介している。ワーク・エンゲイジメントは、仕事に対する熱意や積極的な態度を指し、ワーク・エンゲイジメントが高いほど家庭生活にも良い影響をもたらすと考えられている。他方、ワーカホリズムは、仕事に過度に強迫的にのめり込む傾向を指し、ストレスの増加や家族との関係の悪化が生じやすく、結果としてパートナーの精神的健康に悪影響を与える可能性に言及している。 第2章では、本研究が依拠する理論について説明を行っている。本研究では「スピルオーバー・クロスオーバー・モデル」に注目し、自分自身の働き方が家庭に持ち越されてストレスからの回復に影響を及ぼし、その結果、自分自身の精神的健康だけでなく、パートナーの精神的健康にも波及するという仮説を提示した。 第3章と第4章は、インドネシアの育児中の共働き夫婦を対象とした実証研究の結果をまとめている。 第3章では、仮説検証に必要な心理尺度の1つである「リカバリー経験尺度」のインドネシア語版を開発し、その信頼性と妥当性を検証した。原著者の許諾を得たうえで、英語からインドネシア語への順翻訳、逆翻訳、表面的妥当性の確認を行った後、241名のデータを用いて、内的一貫性、再検査信頼性、因子的妥当性、構成概念妥当性を確認した。 第4章では、「スピルオーバー・クロスオーバー・モデル」を用いて、仕事の影響が家庭生活へ波及するプロセスを分析した。夫婦双方から得られたデータをリンクさせ、共分散構造分析による解析を行った結果、ワーク・エンゲイジメントが高い人は、ポジティブな影響を家庭に持ち帰ることで、ストレスからの回復が良好となり、自分そして				

論文審査の要旨及び担当者

No.2

パートナーの精神的健康も良いことが示された。一方、ワーカホリズムの傾向が強い人は、仕事のストレスを家庭に持ち込み、ストレスからの回復が良くないため、自分そしてパートナーの精神的健康が悪いことが明らかになった。

第5章では、総合的考察として本研究で得られた理論上の成果、実践への貢献について、先行研究と比較しながら議論を行っている。さらに、本研究の限界と、今後の展開として期待される研究の方向性について述べている。

本研究の研究上の重要な意義として、共働き夫婦の双方からデータを収集し、両者のデータをリンクさせながら、個人の働き方が、ワーク・ライフ・バランスのあり方とストレスからの回復を通じて、個人とパートナーの双方の精神的健康に影響を及ぼす可能性とその心理社会的メカニズムを実証的に示した点が挙げられる。

本研究の知見は、企業における産業保健や経営・人事、行政におけるワーク・ライフ・バランス支援や子育て支援において、ワーク・エンゲイジメントを促進しつつ、ワーカホリズムのリスクを軽減するための施策を促進するうえで、有益な根拠を提供するものと考えられる。

以上、本研究によって得られた研究成果は極めて新奇性が高く、学術的側面のみならず実践・政策への応用も期待できる。本研究はハムシャ、フアド君の高度な研究遂行能力と当該分野における豊かな学識を有することを示すものであり、その成果は心理学分野および産業保健分野の発展に確かな一歩として位置づけられることは疑う余地がない。よって、本学位審査委員会はハムシャ、フアド君が博士（学術）の学位を受ける資格があるものと認める。